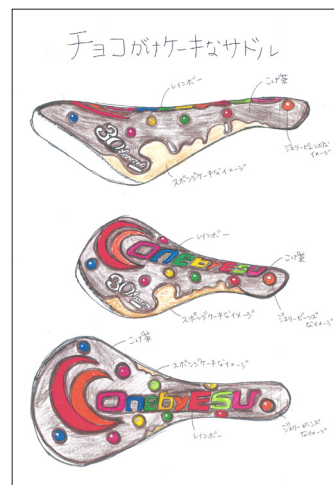


『チョコがけケーキなサドル』

▶ワンバイエスの 30mm レールサドル「ナロウサーティー」シリーズ。今から 10 年以上前にサポートし始めたパナソニックレディースチームの「坂口聖香」選手は、ロード・トラック・シクロクロス・MTB を乗りこなす女子では稀有なマルチプレイヤーとして CX 全日本などで数々の優秀な成績を残しましたが、ナロウサーティーサドルの愛用者でもありました。成長著しい 2013 年頃にちょっとした会話から『サドルトップ（生地表面）のデザインをしてみたい』と要望がありました。ベースのモデルは「ナロウサーティー スキニー」です。できるかどうか、弊社オリジナルサドルを作って頂いているサドル工場に掛け合うしかありません。工場は有名ブランドを多数手掛ける世界一の規模と実績を誇る。勿論今回は 1 個人の選手専用品であり販売目的のものではありません。作るのは当時皆から師匠と呼ばれていた男性の技術職人さんですが、何しろ日本のまだ 10 代の無名の女子選手。ただ、工場の事務方社員の殆どが女性、社長も担当者も女性で弊社との付き合いも長い、という希望を持ちつつ、確証も無いままに…しかしなんとか要望を実現してあげたいとの一心でした。

▶色んな経緯の末、社長に直談判しました。するとニコリ微笑んでくれたのです。兎に角、選手本人自身がデザインすることに意味がありました。彼女が手書きで描いた可愛いケーキのようなサドル。まさか、でしたが見事に鮮明に出来上がり、世界選手権などのレースを共に戦いました。このサドルを見る度に、作ることや戦うことの意味を深く考えさせられます。



手書きの絵がサドルに再現される為には雰囲気合致するまで試作を重ね調整し、結果見事に再現されました

【なまえの由来】番外編（ブランド名称）

ディズナ Dixna

フランス語の「quatre vingt dix-neuf」＝「キャトル・バン・ディズ・ナフ」。訳すと数字の「99」です。1999 年に誕生した東京サンエスのロード系オリジナルブランド「ディズナ」はこの「99」を語源とした造語です。99 年に誕生したブランドだからこそ、常に次の大台である「100」を追い続けるブランドでありたい・・・と願い命名しました。

更に番外で、この Dixna の最初期の商品「オデットステム」（現在はありません）の Odetto はチャイコフスキー「白鳥の湖」のヒロイン「オデット姫」から。ステムの形状が白鳥の頭を想像させることから。最初のハンドル名は「ジークハンドル」（現在はありません）。そう同じく「ジーク王子」のことです。ディズナは、とても洋物的なネーミングから始まったのです。

Dixna



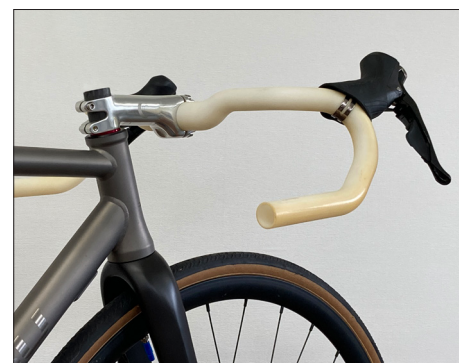
個性的形状のオデットステムは前から見ると白鳥の頭のような

～製品化に至らなかったシリーズ～

【第 5 回】身代わりとなったクライムドロップ

長野県、乗鞍でのオンロード登り（ヒルクライム）レースは 1986 年から続いています。ヒルクライムは今や各地方で人気のイベントです。30 年位前からヒルクライムに特化した機材の情報も多くなり、ドロップハンドルよりフラットハンドルが優位だという意見も出たりしていました。そんな中で登りに特化したドロップハンドルを検討しました。所謂クライミングドロップハンドル＝登坂用ドロップハンドルの構想です。登っている間の殆どをドロップ位置で集中し、上腕を活かしながら呼吸しやすくスピードを落とさずに攻める・・・という形状の追求。針金から図面化し 3D プリンターまで作りましたが、何だか中途半端に感じられ断念しました。実はこのハンドル、構想から針金作りに至ったその 1 週間後に同じように針金作りを始めたのが「Veno ボードレスカーボンハンドルバー 2」（Vol.52 掲載）でした。開発コンセプトは若干違いますが、ボードレスカーボンハンドルバー 2 の中途半端感の無い圧倒的形狀出現の後押しをしたのがこのハンドルだったのです。それは形状から察しできると思います。

クライムドロップ・・・断念しましたが継承された、と今にして思うところです。



今や違和感の無いカタチながらフレアでアナトミックなドロップはかなり特殊だと思います